

平成29年度学校評価分析結果

学校 経営 重点	重点達成のための方策	分析内容（分析内容と、成果・課題及び改善の方策等）
豊かな人間性と社会性の育成	1 体験学習の重視	<p>①キャリア教育の推進、理数教育の推進</p> <p>○アンケート結果より AとBを合わせた肯定的な回答が約90%で昨年度より肯定的な回答が多くなっている。ただ、昨年度と同様にBと回答している教職員が59%に及んでいる。教育課程の全体計画を確認し、キャリア教育を意識した教育に努めるよう改善していく必要があると考える。</p> <p>○成果と課題・改善方策案 修学旅行や林間学校、体験教室などの校外学習において、児童数が多く定員オーバーということで断念せざるを得ない場合が多く見られた。学年を2グループに分け対応したり、施設に無理を言って利用させてもらってきた。そのような状況の中、各学年で地域の方々や外部団体等と連携を図りながら最大限の努力している。今年度の取り組みについて引き継ぐと同時に、更なる工夫や取り組みを続けていかなければならないと感じている。</p> <p>②本物体験を取り入れた授業</p> <p>児童数が多く、理科室やコンピュータ室など、特別教室の授業確保が難しくなっている。理科主任が中心になって来年度の理科の教育課程を工夫し、理科室使用が重ならないように編成する必要がある。他の教科・領域も含め、さらに教育課程の見直しや特別教室の使用計画等の検討が必要だと考える。</p> <p>③活用と連携型授業の実施</p> <p>各学年、学級において体験活動を少しでも取り入れた授業展開を行うように努めている。ただ、児童数に対して教材教具が不足し、一人一人に十分体験をさせることができないこともある。教育予算が削られる中、大変だと思うが教材教具を確認して、優先順位に従って購入等を行って補充を図る必要がある。</p> <p>④日本の伝統文化を取り入れた学習</p>
	2 美しいものに感動し、思いやりの心をはぐくむ教育の推進	<p>⑤「私たちの道徳」や資料の効果的活用</p> <p>○職員用アンケートより 質問項目20について、保護者がA・Bをつけた合計は32%、59%という評価になっているが、この質問項目から、「わたしたちの道徳」や資料の効果的活用がされているかを分析するのは難しい。今年度は、道徳資料テキスト、わたしたちの道徳を併用して、各クラスで道徳の授業を展開してきた。また、道徳の時間だけでなく、さまざまな教育活動の中で資料を活用しながら、道徳的心情を培う指導をしてきた。</p> <p>○成果と課題、改善方策案 11月の土曜参観で全クラス、道徳の授業を行い、学年ごとに資料等の効果的活用について検討し、保護者にも一緒に考えられる資料を提示できたことは成果といえるだろう。また、校内研究会の道徳ブロックにおいて、資料の提示の仕方や効果的な扱い方について提案できた。今年度は、「わたしたちの道徳」と資料テキストを両用し、効果的な資料を選択して取り組んできたが、低・中・高学年の複数学年において、どちらの学年がどちらの資料を使用するのか事前検討が必要であった。来年度は道徳の教科化が始まるので、教科書の資料を活用し、道徳の学習を推進し、美しいものに感動し、思い遣りの心を育む教育の推進をしていきたい。</p>
	3 生徒指導の徹底	<p>⑥あいさつ運動の推進</p> <p>○児童、保護者、教員アンケート結果より 質問項目1（あいさつ）について、児童がA・Bをつけた合計は94%（A70%、B24%）、保護者がA・Bをつけた合計は78%（A28%、B50%）、教員がA・Bをつけた合計は100%（A80%、B20%）という結果だった。児童と教員はAが一番多く、保護者はBが一番多い。またA・B合わせた数値では、児童、教員と比べると保護者が低い結果になった。</p> <p>○成果と課題、改善方策案 保護者の肯定的な回答が若干低いのは、家庭での様子や地域での様子をイメージしてのことではないかと思われる。家庭ではなれ合いになっしまい学校ほどあいさつをしっかりしていないのかもしれない。また地域での様子をそんなに何回も見つる機会もないのかもしれない。児童アンケートでは肯定的であり、教員もA・Bで100%であることを考えると、今学校で行っているあいさつ運動等はそのまま推進し、</p>

		<p>今後は家庭内であいさつを行うよう様々な機会を通じて呼びかけていくことも必要かと思われる。</p>
	⑦ 学校生活のきまりを守る指導の徹底	<p>○児童、保護者、職員アンケート結果より 職員アンケートでは②③共にA・Bの合計が100%、保護者アンケートでも共に80%以上を越え、高い数値になっている。児童アンケートでは②はA・Bの合計が94%と高い数値であり、③も85%と低くはないが、②に比べると若干数値が低い。</p> <p>○成果と課題、改善方策案 大方の児童は守れていると思うが、忘れ物の方がやはり意識が薄い児童がいるのではないかと思われる。これまでも指導してきていることではあるが、連絡帳を書かせることの徹底、そしてそれを家で必ず見返すことの指導、児童のみでの実行が難しいときは保護者の協力を仰ぎ持ち物準備を習慣づけていくことを低学年から系統的、組織的に行っていくことが大切であるとする。保護者には学習予定表や学年通信、HP等を通じて知らせていくことや啓発していくことも必要。場合によっては個別に連絡していくことも必要と思われる。</p>
	⑧ 「自己肯定感」を高める場づくり	<p>○保護者・職員アンケート結果より 教員アンケートではA・Bの回答が96%、保護者アンケートでは94%となっている。児童のアンケートを見ると、A・B回答者の人数が85%である。低学年では、まだ「自分が好きかどうか」ということを考える機会自体が少ないのではないかと思われる。</p> <p>○成果と課題、改善方策案 自己肯定感を高めていくためには、やはり周囲にいる大人との関わりが欠かせないと思う。家庭や学校、習い事、地域などあらゆる場面で、認め励まし褒めるべき所は褒めるといった関わりや言語環境の充実が望まれる。これらの効能や影響を学校からも発信したり啓発したりしていくことも大切だと考える。</p>
	⑨ いじめの未然防止、早期発見と対応	<p>○保護者・職員アンケート結果より いじめに関しては、数値の高さだけからは安心できない。まずは未然防止、そして現実に目を向けた日々の実践や指導等、不断の努力が大切になってくると思われる。</p> <p>○成果と課題、改善方策案 組織的には、いじめアンケートの実施・追跡調査・聞き取り・対策会議・学年チームとしての対応等を含めた早期対応など校内のシステムを構築し常に機能させられる状態を保っていることが重要であるとする。それぞれの担任においては、まずは未然防止あるいは教育的予防を意識し、いじめの起こりにくい、その土壌をつくらないための学級経営の工夫、そして保護者からの信頼を築いていけるような関係づくり等に十分配慮していくことが重要であるとする。本校では本年度「山城小生徒指導における「報・連・相」及び対応スタンダード」を作成し、生徒指導上の対応についての強化を図った。</p>
4 児童会活動の充実	⑩ たてわり班活動の計画的実施	<p>○アンケート結果より A・Bを合わせると、児童92%、保護者91%、教員100%ととても高い評価になっている。児童会行事や活動の様子をホームページにアップしていったことで、保護者の理解にもつながったと思われる。また、教員の方は全体的にはよいが、内訳はA58%、B42%であり、よくできていると答えたのは半数のみであるので、まだ意識が高いとは言えない。</p> <p>○成果と課題、改善方策案 全体的に児童会活動に対する評価は高い。特に児童は70%以上がAと答えている。引き続き児童が楽しみに取り組めるような児童会活動を計画・実施していく。また、職員に対しても学年の児童会担当を中心に活動内容の共通理解を図り、全職員で児童会活動に取り組んでいく意識を高めていく必要がある。保護者に対しては、児童会だけでなく、ホームページを活用して、負担にならない程度に情報発信をしていく必要がある。(学年の児童会担当の中で、ホームページ担当を決めるなどすると、5・6年の児童会担当の負担も減るのではないか)。たてわり活動の計画的実施に関しては、学校行事との兼ね合いもあり、時間の確保が難しい。ふれあい木曜日で確保している時間を、各学年に割り振るほかに、たてわり活動にも割り振ってもらえ</p>

		ば、時間の確保も可能ではないかと思う。
5 健康増進・保健教育の推進	⑪ 栄養職員と連携した食育の推進	○児童のアンケート結果より AとBを合わせると、児童88%、保護者75%、教員95%という評価になっている。多くの児童が好き嫌いなく給食を食べていると答え、保護者は子どもとの意識の違いかやや低くなっているが、保護者の願いが強く表れている。教員の評価はとて高く、朝学時の食育ワークの活用、給食時間の声かけなど、食に関する指導を実態に合わせて行っていることがわかる。 ○成果と課題、改善方策案 多くの児童が好き嫌いなく食べているという実態ではあるが、CやDの児童も12%いる。今後も食に関心をもたせながら、食について学習する取組を継続していきたい。
	⑫ 健康三原則（食事、睡眠、運動）の指導	○児童アンケート結果より 質問項目12について、A・Bをつけた合計は84%とかなり高い評価になっている。 ○保護者、教員アンケート結果より 質問項目12について、保護者がA・Bをつけた合計は44%、31%とやや低い評価になっている。教員も34%、55%とやや低い評価となっている。質問項目13について、保護者がA・Bをつけた合計は37%、33%と低い評価になっている。教員は60%、36%と高い評価となっている。 ○成果と課題、改善方策案 児童アンケートの結果からもうかがえるように、ほとんどの児童は休み時間に外で遊んだり、健康を考えて体を動かしている。保護者アンケートの結果からもうかがえるように、家庭では食事や運動に積極的に取り組む意識が低い傾向にある。それに対して教員の意識は高いので、休み時間には外遊びを促したり、給食の時間に食指導をするなど継続して取り組みをしていく必要があると思われる。 家庭には健康三原則について、たより等で引き続き情報発信をしていく必要がある。
	⑬ 社会体育との連携	○成果と課題、改善方策案 社会体育等の施設利用に関しては、毎月の調整会議に出席し、学校の施設に関する情報提供や施設利用時の注意喚起等を周知している。概ね良好な施設利用をいただいている。駐輪場や駐車場の利用について、利用場所や注意すべきことについて繰り返しその会議の中で話してきた。特に、北門の開閉については利用後に閉めない団体があり、周知を重ねていきたい。
6 学校美化と安全教育の推進	⑭ 子どもと一緒に清掃活動の推進	○保護者・教員・児童アンケート結果より 質問項目15について、教員がA・Bをつけた合計は、100%というとても高い評価になっているので、忙しい中ではあるが今後も師弟同行で行っていききたい。児童がA・Bをつけた合計も、95%という高い評価になっている。しかし、僅かではあるが、C・Dの児童も見られるのでさらに指導を続けていきたい。また、保護者への質問は、家庭内でのそうじなどのお手伝いに関するものであるが、学校での評価と比較するとC・Dをつけた合計が、35%とお手伝いをあまりしていない児童が多く見られる。 ○成果と課題、改善方策案 教員も児童も、共に清掃活動を一生懸命行っているので、引き続きこの意識で取り組んでいきたい。家庭でのお手伝いについては、家庭の協力を促しながら児童に声をかけていきたい。
	⑮ 学校における危機管理と安全教育活動の推進（防災教育と施設設備の点検、不審者対策と関係機関との連携）	○成果と課題、改善方策案 防災教育については、事前告知ありの地震、及び火災に対する避難訓練をそれぞれ実施し、児童、及び教職員の動きについて反省を行った。児童は、訓練後に学級、または学年で反省を行い、事後指導を受け、防災に対する意識が高まったといえる。また、教職員に対しても改善策を提案し、教職員全員に周知を図ることで、意識を高めることができたといえる。一方で、防災マニュアルの火災に関する部分が不十分であったり、マニュアルがあっても教職員への周知が徹底しない部分があったりするなどの課題もある。今後は、マニュアルに修正を加えた上で、確認を教職員に徹底していく必要がある。また、火災に対す

		る避難訓練では、地域の消防団の方々と連携を図り、水消火器の体験や、消防団の訓練の様子を見学等を実施することができた。保護者の普段とは異なる姿を児童が見る、よい機会になったといえる。
	⑯ マホルメールの活用	○保護者、教職員アンケートより マホルメールをはじめ、学校だより、学年だより等により学校の様子がわかる（「よくあてはまる」「ややあてはまる」とした保護者が96%、情報発信に努力したという教職員が100%となっている。 ○成果と課題、改善方策等 各分掌からの情報発信はおおむね良好である。開かれた学校づくりの一助となっていると考えられ、今後も引き続き継続的な取組をしていきたい。一方、HPによる学校の様子を知らせることについてはやや低調であると考えられるので、積極的な運用を図る必要がある。
	⑰ 報告、連絡、相談の徹底	○教職員アンケートより 報連相を徹底している（「よくあてはまる」「ややあてはまる」とした教職員が98%程度となっていて、おおむね良好である。100%を目指したい。 ○成果と課題、改善方策等 今年度は、生徒指導にかかる報告を口頭と合わせて文書（生徒指導記録票）での報告を徹底した。また、全職員に情報共有すべき内容（生徒指導連絡せん）は確実に伝わることを徹底するための対策として取り入れ、一貫した指導体制を構築できた。一方で、文書報告については教職員の負担となっている可能性があり、どの生徒指導について文書とし、その他を口頭とするかについて検討する必要がある。
子どもの学びを大切に	1 基礎基本の確実な定着	⑱ 学力向上に向けた一人一人実践 ○教員アンケート結果より 質問項目22について、校内研究で一人一実践に取り組んでいることもあり、教員がつけた合計はAは62%、Bは38%、C・Dは0%と全体的に高い評価になっている。 ○成果と課題、改善方策案 教師の自由記述の中では、「休み時間等にも個別の指導を行っている。」「課題の見つけ方や課題設定のヒントになる説明を工夫している」など、時間の取り方や授業の進め方の工夫を行いながら取り組んでいることが分かる。子どもに還元するためにも、継続して進めていく必要がある。今後も個に応じた指導で、子どもの見取りを丁寧に行い、補充を必要としている児童の支援を引き続き行っていきたい。
		⑳ 個に応じた補充、取り出し指導 ○成果と課題、改善方策案 教師の自由記述の中では、「休み時間等にも個別の指導を行っている。」「課題の見つけ方や課題設定のヒントになる説明を工夫している」など、時間の取り方や授業の進め方の工夫を行いながら取り組んでいることが分かる。子どもに還元するためにも、継続して進めていく必要がある。今後も個に応じた指導で、子どもの見取りを丁寧に行い、補充を必要としている児童の支援を引き続き行っていきたい。
		㉑ 学習規律の確立、家庭学習の推進 ○児童・保護者・教員アンケート結果より 質問項目7、9について、児童の7の項目は90%、9の項目は95%はABであり全体的に高い評価であるが、CDのばらつきがある。学校の決め事（山城スタンダード）として、授業の準備が習慣づくよう継続して取り組んでいく必要がある。家庭学習においては、教員がABだけの評価であるのに対し、保護者はCDの評価があるのが特徴的である。 ○成果と課題、改善方策案 市の「家庭学習の手引き」や県の「学びの甲斐善八か条」などを活用しながら家庭学習の仕方をよりわかりやすく示す必要がある。また、教師の自由記述の中にも、「自主学習をしたら提出させる等奨励している」など、家庭学習を計画的に進めるよう子どもたちにも意識をつけていくことが必要である。
2 本校の特色を發揮	㉒ 言語活動の充実	○教員アンケート結果より ・A-46%、B-46%、C-7%で全体的に高い評価である。 ○成果と課題、改善方策案
	㉓ 言語表現力を高める場づくり	・教師アンケートの記述にあるように、分からない言葉は解説したり、実物を見せたりしながら、言語活動の充実をはかってきた。（成果） ・学力テストの結果、漢字や、ことわざ・短歌や俳句・古文や漢文などに関する設問の正答率が低かった。漢字の習得においては、反復練習だけでなく、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣をつけるために言語環境を整えることも必要だと考える。また、ことわざや短歌など多様な文章に触れる機会を意図的に作っていくなど工夫して言語表現力を高めていきたい。（改善）
	㉔ 国語力の向上への取組	○成果と課題、改善方策案 市の「家庭学習の手引き」や県の「学びの甲斐善八か条」などを活用しながら家庭学習の仕方をよりわかりやすく示す必要がある。また、教師の自由記述の中にも、「自主学習をしたら提出させる等奨励している」など、家庭学習を計画的に進めるよう子どもたちにも意識をつけていくことが必要である。
	㉕ 読書活動の推進と言	○保護者、教員アンケート結果より 質問項目4について、保護者がA・Bをつけた合計は34%、57%と

<p>語環境の整備</p>	<p>いう評価になっているので、だいたいできていると受け止められる。A評価が34%でB評価より低いのは、まだまだ場に応じた言葉遣いのできない場面があると保護者として感じているのではないかと考える。また、教員の方はA-70%、B-30%と子供たちへの指導に力を注いでいる事が分かる。ただ、個々には発信が足りていないと感じている先生もいるようだ。</p> <p>○成果と課題、改善方策案</p> <p>教員としては指導に力を注いでいる意識でいるが、保護者の求める「場に応じた正しい言葉遣いのできる子供」の理想像には満たないことが課題である。保護者の求める目標値と教員の求める目標値を合わせる必要がある。学年・学級懇談会で話題にしたり、学校・学年・学級だよりなどのたよりを通じて子供の様子を発信したり、スクールガード隊や読み聞かせやミシンのボランティアの方々など普段の子供たちの様子をよく知る方々に話を聞くなど、子供の実態をつかみ、それを指導に生かしていかなければならない。また、教員の記述によると、教員の言葉遣いの指導に対する意識の違いを指摘する意見があった。教員が統一した意識を持つことは指導の大前提である。速急な意識改革と、指導の統一化を図らなければならない。</p>
<p>②⑤ 教師の個性や特性を生かした授業</p> <p>②⑥ 学習形態の工夫、個に応じた指導等</p>	<p>○児童・保護者・教員アンケートから</p> <p>児童のABが90%、保護者のABが89%の評価で、教員の評価はAB100%と高い評価となっている。ただ、保護者の自由記述の中には、「授業の内容が分かっていないことがある」「各学年で全国統一テストを実施してほしい」などの声があり、学力を危惧し、学力向上への学校の対策を期待する保護者もいる。</p> <p>○成果と課題、改善方策案</p> <p>校内の学力向上の取組をより周知し、日々「わかりやすく、楽しい授業」を実践するための授業改善を今後もしていく必要がある。また、児童でCDをつけた子どもに意欲を持たせる工夫をする必要がある。</p>
<p>②⑦ 教科担任制活用（高学年）</p>	<p>○教職員アンケート結果から</p> <p>よくできている46%、だいたいできている46%、計92%と高達成度の結果となっているが、質問の文が教科担任制に特化した質問ではないので、この問題に対して達成率が高いとは判断できない。</p> <p>○成果と課題、改善方策案</p> <p>高学年では、科目数も持ち時間数も多くなり、低中学年の担任や、教務所属の教員との持ち時間数のバランス等を考えると、応援授業を教務所属の教員に依頼することとなる。その為、教務所属の教員の得意科目を持ってもらうことで専門性や得意分野の力を発揮してもらうようにしている。ただし、教科ごとの授業時数の関係で、特に得意ではない教科を持ってもらう場合もある。また、同学年間の教員が特定の教科を受け持ち複数のクラスで教えることで教材研究の時間や教材準備の時間の短縮等効率的に進めることが出来るようになるが、時間割の編成が大変複雑になることや、授業時数の均等化の視点からかなり困難である。したがって、低中学年と比べれば高度で専門的な内容を教える高学年の特性を考えると、得意分野の教科について同学年の教員に情報提供、教材の共有の推進を図っていくことが効果的であると考える。</p> <p>○成果と課題・改善方策案</p> <p>現状では教科担任制は実施されておらず、交換授業のみ実施されている。音楽や家庭科など教科担任制を実施したいのだが、本校のクラス数や職員数・職員構成、教師の専門性や得意分野等の関係で、難しいところである。学年内の交換も考えていきたいのだが、やはり教職員数や施設面等の関係で対応がなかなか難しい。</p>
<p>②⑧ 朝の時間の読書の活用</p>	<p>○保護者、教員アンケート結果より</p> <p>質問項目14について、保護者がA・Bをつけた合計は77%と高めの評価になっているが、C・Dの合計が22.2%であり、進んで読書に取り組もうとしない子供が2割を占めることが分かる。また、教員のほうは、A-49%、B-51%と、子供たちの指導に力を注いでいる事が分かる。ただ、個々には発信が足りていないと感じている先生もいるようだ。</p>

		<p>○成果と課題、改善方策案</p> <p>山城の子供たちは全体的に読書に親しんでいる傾向が受け止められる。授業時間の図書利用や、山城ルーム、「朗読やましろ小」のボランティアの方々による朝・昼の読み聞かせなど、教員も意識して子供たちが本に触れる機会を増やそうとしていることが感じられる。今年度は図書館環境作りや、本に親しみやすくなるようなイベントなどに力を入れたので、教員の意見にも「読書活動が活発になってきた。」という評価があった。ただ、課題として残るのは2割の子供たちの実態である。発達段階が上がるにつれ本離れの傾向があることや、スマホ・ゲームなど読書以外の娯楽が子供たちの身近にあることなども要因であると思われる。それ以外にも、大規模校であるため、児童数に見合う蔵書数がないこと、図書室が狭いことなどの制限があり、子供たちが心置きなく本に親しめる環境が整わない現実がある。ただ、その中でも、工夫やアイデアを駆使し読書環境を整え、子供たちが本に親しめる努力を欠かさないこと。「朗読やましろ小」の読み聞かせボランティアの活動を継続させていくことが大事である。また、「家読」の取り組みをもう少し増やし家庭・保護者も子供たちと一緒に読書に親しむ時間をとる大切さや必要性を発信していかなければならない。</p>
	⑳ 水泳指導の充実	<p>○教員アンケート結果より</p> <p>質問項目23について、教職員がA・Bをつけた合計は94%と高い評価となっている。Cは7%となっている。</p> <p>○成果と課題、改善方策案</p> <p>質問項目23については昨年度と比べ、改善している結果となった。限られた環境の中で学年間で協力をしながら取り組んできた成果である。また、夏休み中もプールを開放したり、高学年の児童を対象に小瀬スポーツ公園のプール使用許可書を発行したり、水泳が苦手な希望する児童には水泳指導教室を開いたりした。一方で、人数に応じた指導を工夫しながら取り組んできたが、課題も見られた。第一に水質の安全性の確保である。一度に多くの児童がプールに入るためどうしても水の白濁がみられ、塩素濃度の調節もすぐに塩素がとんでしまうため難しい。授業中に定期的に水質検査を実施し、安全性を確保していかなければならない。第二に、充実した水泳指導を行うための設備についてである。一度に入水する児童に制限を設けるなどの工夫を行い、安全を確保しながら活動をしている。しかし、一人ひとりの活動時間はどうしても少なくなってしまう。引き続き市の方にも施設の一層の充実を要望していきたい。</p>
	㉑ 特別支援学級担任と支援員との連携	<p>○職員アンケート結果より</p> <p>質問項目23について、職員がA・Bを付けた合計は92,7%と高い評価になっている。しかし、様々な要素があるので、明確に分析できない。</p> <p>○成果と課題 改善方策案</p> <p>支援員に限らず、特別支援学級の担任や交流学級の担任とは常にコミュニケーションをとるように意識している。しかし、支援学級も3クラスあり、交流学級も7クラスあるので、行事や時間割の変更等に対応するのが大変である。できるだけ、最新の予定を確認して対応する必要がある。</p>
	㉒ ICTを活用した学習の推進	<p>○職員アンケート結果より</p> <p>質問項目23について、職員がA・Bをつけた合計は92%と高い評価になっているが、質問項目はICTの活用だけではなく、さまざまな要素があるので、一概には言えない。反省からは設備の不足が指摘されている。</p> <p>○成果と課題 改善方策案</p> <p>各学年に一台ずつの実物投影機の追加購入を申請したので、実現すればわずかながらも設備の増加につながる。H30にはパソコン室に新しいパソコンが導入すると聞くので、今後は効果的な利用方法を考えていく必要がある。教室のパソコンのネット環境については、現状を変えることは難しい。</p>
3 総合的な学習の時間の充実	㉓ 地域の特徴と人材を生かした取	<p>○教員、保護者アンケートから</p> <p>地域や保護者と積極的に交流・連携し、地域人材・地域教材を活用した取組について、96%の保護者や教員が肯定的な回答をしている。</p>

	組	○成果と課題、改善方策等
	③④ 環境教育の推進（外部団体との連携）	引き続き、地域の特色を生かし諸団体との連携を図り、趣旨やねらいを明確にして取組の充実を図る。
	③③ ボランティア活動の推進 ③⑤ 福祉教育（「春光園」「あかし」への訪問）	○保護者、教員アンケート結果より 質問項目18について、保護者がA、Bを付けた割合はA53%B43%で合わせて97%と比較的に高い。教員アンケートについてもAB合わせて96%と高い値になっている。保護者へも学校のボランティア活動への協力をお願いしていることで、家庭で一丸となって取り組むことができているように感じる。 ○成果と課題、改善方策案 ボランティア委員会では地域の老人ホーム訪問を行ったり、家庭と協力して古切手やはがき、石鹸タオルやペットボトルキャップなどを集めたりする活動を行った。今後も学校だけでなく、保護者や地域と連携してボランティア活動の推進に努めたい。 ボランティア委員会の老人ホーム訪問では、昨年と同様の老人ホームに訪問したが、手をあげたり話したりすることが難しい人の多い老人ホームもあり、子どもたちのゲームへ反応できる人が少なくあまり交流できない場所があったため、訪問場所を検討する必要がある。（山城地区には老人ホームも多く、何件か来てほしいという話もある。）
	③④ 環境教育の推進（外部団体との連携）	○教員アンケート結果より 質問項目18について、A-43%、B-53%、C-5%と高い評価になっているので、これからも地域との交流・連携をし、地域の人材・施設・教材を活用した取組を続けて行なっていきたい。 ○成果と課題、改善方策案 愛校作業や愛町作業を通して、地域や保護者との連携を取りながら環境教育を進められたと感じるが、もう少し取組があってもよいかもしれないと感じる部分もある。例えば、登校時にゴミ拾いを行ない、朝の旗振りの方やパトロールの方にゴミ袋を持っていただいたり、校門にゴミ箱を設置したりして、町の環境美化に努める取組が考えられる。しかし、このような取組は個人ではなかなか進められず、学年主任や学校を通してということになるので、行なっていくのはやや難しいと思われる。
4 外国語活動の充実	③⑥ FETとの連携と授業の工夫	○該当教員の回答より 本校はFET訪問が、2.5日と比較的他校より恵まれているため、時間を見つければ放課後の打ち合わせが比較的しやすい現状がある。昨年度の反省を生かし、学年の外国語担当、国際理解担当が打ち合わせをし、授業を実施する確認を年度当初行ったので、昨年よりFETに任せきりになる授業が少なくなった。ただ、依然として学年により差がある。訪問計画書を前の月に早めに出すようにし、打ち合わせがしやすいようにしている。また、本年度は秋田県が作成した日本語と英語の指導案を活用してもらうことにより、打ち合わせをしやすく、さらにどの先生もスムーズにT1ができるようにした。 ○成果と課題、改善計画 来年度は移行期に入るため、今までの積み上げたものだけではうまく回らないことが考えられる。また、月の計画も4学年にわたるため、外国語担当の教員ひとりで作るのは厳しいと考えられる。計画書作成に関わっては、学校全体の時間割にもかかわるので、教務主任の先生に入っていただくことも必要ではないか。うまく移行期が進められるよう、校内の検討委員会を中心に教材作成等も含め、今年度できることは、今年度中に準備を進める方向で動いている。
	③⑦ 「Hi、friends！」の活用	○該当教員の回答より デジタル教材含め毎時間活用している。 ○成果と課題、改善方策案 来年度から変わるが、同様に文科省から出された教材を活用していく。We Can! Let' Try!のピクチャーカードはできる範囲で検討会のほうで作成している。
5 ICT機器の活用	③⑧ 電子黒板、デジタ	○職員アンケート結果より 質問項目23について、職員がA・Bをつけた合計は92%とある程度高い

		ルTVの活用	<p>評価になっているが、質問項目はICTの活用だけではなく、さまざまな要素があるので、一概には言えない。</p> <p>○成果と課題 改善方策案</p> <p>ICT機器の活用については教師間で大きな差があると思われるが、教室にあるデジタルTVの活用については、学校放送を見ているので、100パーセント活用しているといえそうだ。インターネットの環境が悪く、閲覧できなかつたり、固まってしまうたりしている教室があるとのことだが、ヘルプデスクとの相談により、現状を改善するのは難しい。</p>
学校と保護者・地域との連携	1 開かれた学校づくり	① 学校の説明責任と学校評価の実施と公開	<p>○成果と課題、改善方策</p> <p>「学校だより」「学年だより」「保健室だより」「分校だより」等を定期的に発行し、保護者、地域に学校の情報を提供している。マメルメールも含め、学校の情報提供に努めているが、ホームページでの情報提供が少なかった。3学期には、日々の状況をお伝えできるようにホームページを充実させた。</p>
		② PDCAサイクルによる学校評価の実施	<p>○年度初めに学校長が方針を示し、その方針に沿って質問事項を作成し、その評価を行った。各分掌の担当教諭が児童アンケート、保護者アンケート、教員アンケートから分析し、自らの仕事に照らして成果と課題を明らかにした。学校関係者会において、その状況を知らせ、ご意見を伺った上でPTA学校委員会において保護者に公表した。来年度に向けた改善を今後模索していく。</p>
		③ 自己評価、児童アンケート、保護者アンケート（各年1回）	<p>○成果と課題、改善方策</p> <p>2学期末に児童アンケート（全児童）、保護者アンケート、教職員アンケートを実施し、データをグラフ化し、客観的な資料を作成することができた。</p>
		④ 学校評議員会の開催（年2回）	<p>○成果と課題、改善方策</p> <p>学校評議員会を年間2回実施した。1回目は6/21に行い、学校の学習環境、学力について広く意見をいただいた。2回目は学校関係者会と合わせて行い、PDCAサイクルでの学校評価について意見をいただいた。</p>
		⑤ 学校関係者会（年1回）	<p>○成果と課題、改善方策</p> <p>2/16に実施し、学校評議員会を兼ねた。評議員と地区連合自治会長、PTA会長を含めた6名により、学校運営の総括をしていただいた。その場において、学校評価のまとめを行い、学校運営に関する意見をいただいた。</p>
		③⑨ 家庭や地域、関係機関へ向けた情報の積極的な発信（学校だより、学年学級だより、保健だより、図書だより、給食だより）	<p>○保護者、教職員アンケートから</p> <p>質問17について、保護者は96%が「よくできている」「だいたいできている」と回答している。教職員は学校の教育活動を知ってもらうための努力をしていると回答した人が100%となっている。</p> <p>○成果と課題、改善方策等</p> <p>マメルメールの活用により、保護者や地域への周知や情報提供に効果が上がっていると考えられる。各学年の「たより」は毎月発行されていて、児童の様子、教員の願い、行事の見通し、学年会計の引き落としなど必要な情報発信ができていく。今後も引き続き、情報源としての「たより」の発行を心がけていく。一方、ホームページの活用による情報発信が課題となっている。各学年から児童の活動の様子を写真等で知らせることにより、より多くの情報を保護者や地域に発信できるよう、教頭を中心に呼びかけていきたい。来年度は、ホームページを見れば、近々の学校行事や児童の様子を見ることができるよう取組をしていきたい。</p>
		④⑩ ホームページによる情報発信	
		④⑪ PTA活動の推進（本会の活動、各専門部の活動、各学年ごとの親子ふれあい活動）	<p>○保護者、教職員アンケートより</p> <p>質問項目19について、保護者の55%が「あてはまる」40%「だいたいあてはまる」と回答した。共稼ぎ家庭が当たり前の現在においてはこの数値はおおむね良好と考えられる。教職員は、32%が「あてはまる」58%が「だいたいあてはまる」と回答した。</p> <p>○成果と課題、改善方策等</p> <p>教職員の解答に「あてはまる」が32%、「だいたいあてはまる」が58%となっているのは、PTA活動の運営が教頭を中心とした教務が行っているため主体的ではないと考えた教職員が多かったものと考</p>

	えられるため、数値としては妥当な結果であると言える。しかし、PTAや地域との連携、地域とともにある学校づくりの観点からは教務だけが行うだけでは効果的なものにならないと考えられるので、連携方法には課題と工夫が必要と思われる。
④② 地域人材と地域教材の活用	○職員、保護者のアンケート調査から 保護者、職員どちらも「よくできている」「だいたいできている」を合わせて96%と高い数値を示している。 ○成果と課題、改善策 開かれた学校づくりに向け、教育課程の中に積極的に農業体験や文化の学習を取り入れてきた。また、授業での保護者、地域の方のサポートなどもいただくことができた。それらの実績について地域や保護者の方に周知されている様子もうかがえる。今後も引き続き地域の活力を学校教育に生かしていくよう取り組みを進めるとともに、学校と地域がパートナーとして相互に協力をしていけるよう、必要ならば学校の方も地域の行事等に関わっていくように努力していく。 支援米の取り組みにおいて、食とみどり・水を守る山城地区市民会議の方々の協力で、田植え体験や支援米の発送式などを行った。今年は天候不順で稲刈りはできなかったが、収穫されたお米10kgを分けていただき、家庭科の実習で使用させていただいた。 ・ミシンボランティアはとても助かった。今後も続けて行ってほしい。
④③ 授業の公開	○成果と課題、改善方策 授業参観、土曜参観等積極的に保護者に対して授業を公開した。実施日は多くの保護者に来校していただき、児童の様子を知らせることができた。土曜参観では全校一斉に道徳の授業を公開することにしているが、保護者の父親の中には、教科の授業を見てみたいとの意見もあり、検討する必要がある。
④④ 保護者等の教育活動への参加の推進	○成果と課題、改善方策 6月に行うバザー、運動会への準備を協力していただくなど、保護者は非常に協力的であった。バザーはほぼ自主的に行っていただき、例年通りの収益を得ることになった。運動会では、テントの設営に100名以上の方にお集まりいただき、効率的な準備作業ができた。
④⑤ 運動会の土曜日開催（小瀬スポーツ公園）	○保護者、教員アンケート結果より 質問項目18について、保護者も教員もA・Bをつけた合計は96%と高くなっている。Cはともに4%となっている。質問項目19について、保護者でA・Bをつけた合計は95%と高い評価になっている。Cは5%だった。一方で、教員はA・Bをつけた合計は90%であり、Cは11%となっている。保護者と教員で意識に若干の差がみられる。 ○成果と課題、改善方策 質問項目18・19ともに昨年度と同様高い評価となった。運動会を小瀬補助競技場で行うことにも慣れてきたところがあり、全体的にスムーズな運営となった。また、前日の場所取りや運動会後のテント撤収など協力的な保護者が多い印象を受けた。小瀬補助競技場で行うので、保護者だけでなく、多くの地域の人々にも参観していただけた。しかし、児童の安全確保について課題がみられた。練習のために移動をしなければならず、練習時間が限られてしまっている。特に低学年は移動に体力を使ってしまう。また、移動のたびに学年以外の教員も交通整理をしているが、多くの児童を限られた教員で見守ることに限界がある。移動に時間のかかる低学年や練習時間が必要な高学年には休み時間から移動できるような配分にしていきたい。また、練習中にはもちろんのこと移動前後にも水分補給を行うよう共通理解を一層図っていく。移動の際には教員数を増やし、交通量の少ない道路を通るなどの工夫を継続していく。
④⑥ 行事の充実（子どもの成長の節目）	○成果と課題、改善方策 光城祭など児童会を中心とした行事が非常に活発である。異年齢集団での出店ブースの企画、運営を児童が主体的に行うことができたことがなによりの収穫であった。紙相撲大会やバザーなど、多くの行事があるがどの行事も子供たちの興味を喚起する行事であり、教育的意義を十分に見出せる行事となっている。課題は、教職員の負担の軽減である。
④⑦ 保幼小連	○成果と課題

	携の推進	<p>例年、1年生が入学してスムーズに小学校生活をスタートできるように、前年度の1年生の担任が幼稚園・保育園を訪問するなどして、新入児の聞き取りを行っている。園での生活の様子、友達との関わり、健康面等の配慮、家庭の様子など聞き取ったことをクラス分けの参考資料とした。前もって子どもの様子を把握することで、4月から子どもの気持ちに寄り添った指導ができる。しかし、山城小は多くの園から入学してくるので、すべての児童を把握しきれないこと、聞き取りは行っても園によって子どもの捉え方に違いがあることなど、大規模校ならではの課題があげられる。</p> <p>3月には、かほる保育園の年長児を1年生の各教室に招いて、授業の様子を見たり一緒に遊んだりするなどして交流会を行う。</p>
	⑥城南地区小中連携教育の推進	<p>○成果と課題、改善方策</p> <p>(1) 学びでつなぐ【①小中合同学習会、②中学校教員による小学校の出前授業など】 (2) ふれあいでつなぐ【①学園祭・文化祭での作品交流、②中学陸上部の小学生への指導、③中学1年生による山城小での城南中の紹介など】 (3) 地域でつなぐ【①小中合同引き渡し訓練、②朝のあいさつ運動、③地区の諸行事への参加など】 の3つのねらいのもと、それぞれのねらいの達成に向けて、取組を行ってきたことで、小中連携が推進できたと思います。また、学習の3つの心得、(1) めあてを持って学習、最後に振り返り、(2) 先生や友達の話聞く、(3) 毎日、家で学習については、夏季合同学習会において情報交換を行うことができました。しかし、児童・生徒育成の3つの合言葉「あいさつ」「きくこと」「心のしたく」については、各校では普段指導していることですが、共通の合言葉の意識は薄かったと思いますので、広報・掲示など工夫して、城南地区の取組として意識して取り組んでいけたらと思います。</p>
2 地域活動への積極的参加	④⑧社会福祉協議会、青少年育成協議会等地区の活動への積極的参加	<p>○保護者、教職員アンケートより</p> <p>質問項目18について、保護者の96%が「あてはまる」「だいたいあてはまる」と回答していて、おおむね良好と考えられる。教職員も同様の数値となっている。</p> <p>○成果と課題、改善方策等</p> <p>「スクールガード隊」「読み聞かせボランティア」「ミシンボランティア」等、地域人材を活用して児童への教育活動に生かされている。協力をいただいた方々からも「参加して良かった」「これからも協力したい」等の感想をいただいている。また、小瀬スポーツ公園(運動会の開催、スケート教室等)の利用、天津司の舞などの地域の伝統文化を学ぶ機会、米作り、サツマイモ、トウモロコシなどの農作物の苗付け、収穫などの農業体験も地域の力を得て行うことができている。</p> <p>一方で、正月の育成協議会の行事への参加率が低いことが課題となっているので積極的な参加を呼びかけたい。</p>
3 スクールガード隊等地域の見守り	⑦青パトによる交通安全指導、不審者対策の推進	<p>○成果と課題、改善方策</p> <p>登下校指導については、地域の方々200名を超えるスクールガード隊により、日々の安全、安心に貢献していただいている。年間2回の集会において、組織として活動の確認や成果と課題を確認して次年度に結びつける形がしっかりとできあがっている。</p> <p>不審者対策は、情報が入り次第、①警察への通報②マメルメールでの注意喚起③近隣小中学校への情報提供を行っている。また、児童には防犯集会等において、防犯標語「イカのおすし」の周知を徹底し、子ども110番の周知も含めて指導を行っている。</p> <p>課題は、青パトの周知である。地域の方々の見守りと合わせて青パトの巡回も行っているが、児童がその存在を知らないという課題を改善するため、次年度の集会にその周知を図ることにする。</p>